

令和4年度 浜名湖環境活動団体交流会報告

1. 実施概要

(1) 目的

浜名湖流域の活動団体や企業等（以下「団体等」という。）の環境保全に関する活動状況を把握するための情報収集を行うとともに、団体等の活動を広く周知するための支援を行った。

また、浜名湖周辺の環境保全に関する活動団体等が交流・連携する場を提供し、団体等の活動情報を共有し、環境保全の課題解決に向けた団体間相互の連携を促進した。

(2) 実施概要

- 日 時 令和4年11月23日（水・祝）9:30～12:00
 - 場 所 OMソーラー(株)「地球のたまご」2階 カフェテリア
 - 内 容 (1) 施設内覧（地球のたまご・OMソーラー社屋）※希望者のみ
(2) 開会あいさつ
①はまなこ環境ネットワーク あいさつ（会長 芥川知孝氏）
②静岡県あいさつ（自然保護課 室長 上家 信氏）
(3) 情報提供
①静岡県生物多様性地域戦略（中間見直し）の概要
②外来植物対策の活動紹介（静岡県・舞阪の自然を守る会より）
(4) リレートーク（希望団体・チラシ等配布団体：@5分以内）
(5) 意見交換会
テーマ：浜名湖の環境と生物多様性
論 点：浜名湖の生物多様性の課題
浜名湖の生物多様性に対する活動（自分たちができること）
生物多様性地域戦略（中間見直し）について
- 参加者：28名（リアル23名＋オンライン3名）
 - 主 催：静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課
 - 共 催：はまなこ環境ネットワーク

2. 意見交換会の実施内容

(1) 会場の館内見学会

会場を提供していただいたOMソーラーの社屋「地球のたまご」の見学会を行い、太陽光・太陽熱を取り入れた環境にやさしい施設や企業の取組などについて学んだ。



(2) 開会・主催者あいさつ・主旨説明

- ① はまなこ環境ネットワーク あいさつ
はまなこ環境ネットワーク代表 芥川氏より挨拶がされた。
- ② 主催者あいさつ
静岡県くらし環境部 環境局 自然保護課室長 上家 信氏より挨拶がされた。



はまなこ環境ネットワーク 芥川会長あいさつ



静岡県自然保護課 上家氏あいさつ

(3) 情報提供

① 静岡県生物多様性地域戦略（中間見直し）の概要

静岡県が平成 30 年 3 月に策定した「ふじのくに生物多様性地域戦略」について中間見直しを行っており、静岡県自然保護課が社会情勢を踏まえた計画等の更新作業をしている中、計画内容について環境保全活動団体などに話題提供した。

出典資料は、静岡県自然保護課の説明資料

令和4年度浜名湖環境活動団体・意見交換会

資料1

ふじのくに生物多様性地域戦略

～中間見直しの概要～

静岡県自然保護課

ふじのくに生物多様性地域戦略

ふじのくに
生物多様性地域戦略
(2019-2027)

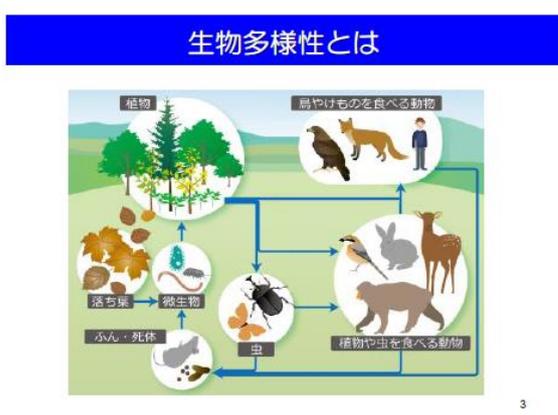
【本県の特徴的な地域】

南アルプス

富士山

浜名湖

伊豆半島



生物多様性に迫る4つの危機

開発等人の活動による危機
開発等で生物の生息・生育環境が破壊されることにより、生物の個体数の減少につながっています。



キンラン 準絶滅危惧種

自然環境に対する働きかけの縮小による危機
雑木林や草地が利用されなくなったことで生態系のバランスが崩れ、里地里山の生物が絶滅の危機に瀕しています。



オオアゲハ 準絶滅危惧種

人により持ち込まれたものによる危機
外来生物の侵入により、在来生物の生息・生育場所が奪われたり、捕食されたり、交雑による遺伝的な攪乱等が生じます。



ブルー mussel 準絶滅危惧種

地球環境の変化による危機
地球温暖化によって分布地域のほか、絶滅の脅威・絶滅待機、昆虫の発生時期等に異変が生じてきています。



ライザード 準絶滅危惧種

5

静岡県の絶滅危惧種

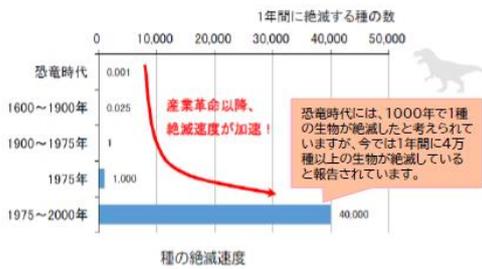
カテゴリー	基本概念	
絶滅危惧種	I A類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	I B類	I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
	II類	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧種	存続基盤が脆弱な種	

【絶滅のおそれのある種数】

動物 **176種**
植物・菌類 **442種**
計 **618種**

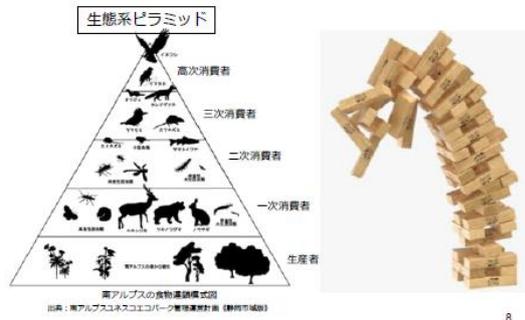
6

絶滅速度の加速



7

生態系のバランスが崩れると・・・



8

(活動例①) 富士山外来種撲滅大作戦



11

(活動例②) 南アルプスの防鹿柵設置



12

(活動例③) アカウミガメの保護活動

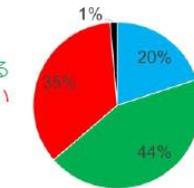


13

「生物多様性」とは何か知っていますか？

Q: 「生物多様性」という言葉や意味について、どの程度知っていますか。(R2県政世論調査)

- A: 1 知っている
2 聞いたことがある
3 聞いたことがない



■ 知っている ■ 聞いたことがある
■ 聞いたことがない ■ 無回答

14

地域戦略の中間見直し①

計画名：ふじのくに生物多様性地域戦略
位置づけ：生物多様性基本法第13条第1項に
基づく地域戦略

年度	地域戦略の期間
2018(H30)	計画初年度
2022(R4)	中間見直し ※概ね5年後 ← 今回
2027(R9)	計画期間終了 ※10年間

15

地域戦略の中間見直し②

ふじのくに生物多様性地域戦略の全体構成

章	項目
第1章	生物多様性地域戦略とは
第2章	生物多様性地域戦略の現状と課題
第3章	戦略の基本的な考え方
第4章	行動計画
第5章	地域別個別計画
第6章	推進体制・進捗管理

⇒ 今回は、社会情勢を踏まえた計画等の更新を実施

16

地域戦略の中間見直し③

「浜名湖」についての記載状況(第4節抜粋・見直し前)

17

地域戦略の中間見直し④

「浜名湖」に関する計画の修正

【行動方針11】河川・湖沼・湿地の水辺のつながりの確保
【第4節】浜名湖

・外来植物の分布拡大により、在来植物や地域固有の生態系を破壊するおそれがあるため、外来植物の除去対策が必要。

・次世代の環境保全の担い手の育成も考え、高校生の参加を促し、継続的な活動につながるよう、民間団体等の取組を支援する。

⇒ 外来植物の除去対策などについて追記予定

18

地域戦略の中間見直し⑤

ホームページの掲載状況(県自然保護課)

19

100年後、1000年後にも



自然と人が共生できる静岡県に

20

第4節 浜名湖



弁天島



浜名湖は淡水と海水が入り混じった汽水の環境であるほか、干潟、藻場等の多様な環境があります。また、アサリやニホンウナギ等の水産資源を活かした産業も盛んです。

- 干潟、ヨシ原、アマモ場等の環境を保全することが必要であり、その際には渡りをする鳥類の中継・生息地としての観点も必要です。
- 湖沼や湿地の保全等を図る必要があります。
- 浜名湖への理解と関心を高めるため、意識啓発や環境保全団体のネットワーク化が必要です。
- 国等と連携し、資源保護に配慮したウナギ養殖への転換を進めるほか、親ウナギの放流等地域の取組を継続する必要があります。
- ツメタガイの駆除のほか、稚貝放流を目的とした天然採苗等のアサリ保護活動を継続する必要があります。
- 近年、アカエイが湖内で増加しており、その実態調査や対策の検討を行う必要があります。
- 浜名湖への理解と関心を高めるため、意識啓発や環境保全団体のネットワーク化が必要です。

具体的な取組

関係課

【浜名湖の豊かな自然環境の保全】

- 「静岡県立自然公園条例」による浜名湖県立自然公園の巡視・指導、規制区域の指定及び開発等の行為規制を行い、浜名湖の自然環境を保全します。 [自然保護課]

【浜名湖の環境保全に関する啓発】

- 「はまなこ環境ネットワーク」の活動促進や、浜名湖クリーン作戦の実施により、浜名湖の環境を保全します。 [自然保護課]

【浜名湖に流入する河川の水質維持】

- 下水道、合併処理浄化槽、農業・漁業集落排水施設の整備や適正管理等により、生活排水による生物多様性への影響を低減します。 [生活排水課・廃棄物リサイクル課・生活環境課・漁港整備課]
- 特定事業場への立入検査や監視等により、事業活動による水質汚濁、地下水汚染、土壌汚染の発生を予防し、生物多様性への影響を低減します。 [生活環境課]

【ニホンウナギやアサリ等水産資源の管理】

- 漁獲されたウナギのうち、産卵降河が近いと思われる大型ウナギの買上放流事業を進めます。 [水産資源課]
- ウナギ養殖業の許可制に伴いシラスウナギの池入れ量を抑制します。 [水産資源課]
- 採捕されたシラスウナギの県内養殖業者のみへの供給、及び採捕許可数量の県内需要量への限定により、シラスウナギの採捕量を抑制します。 [水産資源課]

資料：ふじのくに生物多様性地域戦略 第5章地域別個別計画（浜名湖）抜粋

【ニホンウナギやアサリ等水産資源の管理】

- 漁業者が自ら行っているアサリの天然採苗や人工増殖事業を推進し、浜名湖のアサリ資源を安定して増やします。 [水産資源課]
- アサリ資源を保全しつつ漁獲する漁業者の取組を支援します。 [水産資源課]
- 漁業者が行うアカエイの駆除方法や駆除したアカエイの活用方法の検討に参画し、アカエイの密度管理の実現を目指します。 [水産資源課]

【開発事業者に対する保全措置の要請】

- 開発事業者と自然環境保全条例に基づく自然環境保全協定を締結し、生息状況の正確な把握と、それに基づく必要な環境保全のための措置を求めています。 [自然保護課]

■ 「はまなこ環境ネットワーク」による活動

地域の取組紹介

浜名湖地域で活動している環境保全団体等の交流を促進することを目的に発足した「はまなこ環境ネットワーク」では、会員間の連携と交流促進を図るための団体交流会の開催等、住民行動による浜名湖づくりを促進し、浜名湖の環境保全を推進しています。

■ アマモ場の保全

浜名湖に広く分布するアマモを保全するため、「NPO 法人はまなこ里海の会」ではアマモの観察会等を実施しています。参加者は、アマモ場が魚類等の生物の繁殖場所や生息場所として重要な場所であることを理解し、この環境を守り伝えることの重要性を学んでいます。

■ 浜名湖クリーン作戦

浜名湖周辺の自治体や事業者等で組織する「浜名湖の水をきれいにする会」では、毎年6月に一斉清掃「浜名湖クリーン作戦」を行っています。

■ ヌートリアの駆除

浜名湖沿岸では近年、特定外来生物のヌートリアが確認されています。湖西市では、湖西市野生鳥獣等管理協会へ駆除を依頼し、駆除活動を行っています。

■ 浜名湖体験学習施設「ウォット」での体験学習

浜名湖体験学習施設「ウォット」は、静岡県水産技術研究所浜名湖分場の展示施設です。生物に直接ふれあうことによって、浜名湖の水の生物とその生態環境について学び、浜名湖の豊富な資源に対する理解を深める場を提供しています。

■ 浜名川の浄化

湖西市内を流れて浜名湖に注ぐ浜名川では、下水道の普及のみならず、浜名川をきれいにする会や地域住民等によるEM（有用微生物群）菌を散布する活動等が効果を発揮し、他県では絶滅危惧種にもなっているミズオオバコが群生しているのが見られます。

■ 佐鳴湖の浄化

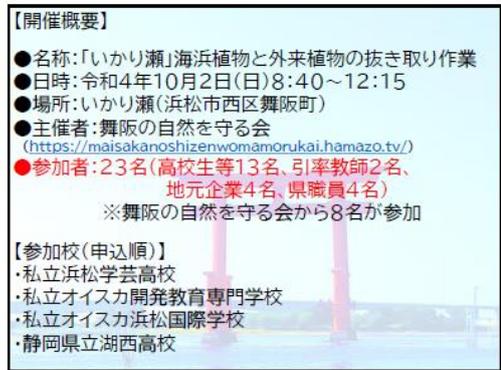
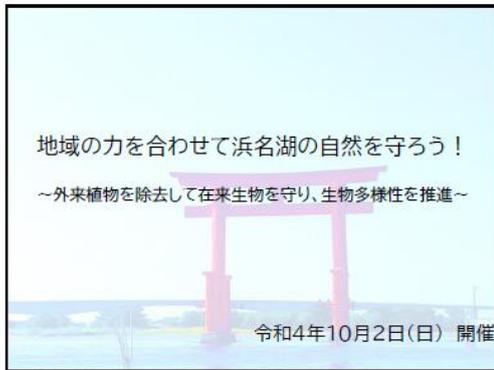
水質汚濁が課題となっている佐鳴湖では、「佐鳴湖水環境向上行動計画」に基づき、流域における水環境改善の取組を定着させるとともに、行動計画に基づく啓発活動等、流域一体となった総合的な水環境の向上に向けた取組を推進しています。

資料：ふじのくに生物多様性地域戦略 第5章地域別個別計画（浜名湖）抜粋

②外来植物対策の活動紹介（静岡県・舞阪の自然を守る会より）

10月に舞阪の自然を守る会主催の「いかり瀬 海浜植物の抜き取り作業」について、内容を紹介した。地元の高等学校（4校）の生徒、地元企業も参加して行った。

静岡県では外来植物の分布状況を調査し、その結果を多くの方に知っていただき、地域の方々による活動の輪が広がるようにしていく。



除去終了(A班:オイスカチーム)



除去開始(B班:浜松学芸・湖西チーム)



除去完了(B班:浜松学芸・湖西チーム)



除去開始(C班:地元企業チーム)



除去中(C班:地元企業チーム)



除去結果(実施前)

→手前側の草をすべて除去!



除去結果(実施後)



除去結果(過去最高!!)

→参加者のやらまいか精神で、予定以上の外来植物を除去できたことから、船を1便増便して搬出



＜以下、講演内容＞

SDGs は一言でいうと、地域を元気にしていきましょう！ということだと思います。
 今日の交流会参加者は、専門性の高い知見を伺い、皆様から教えていただきたいと思っています。

【参加者からの声】



- ・将来的に、国際関係の環境教育に携わりたいので、外来植物を知る機会があつてよかった。(女性)
- ・ボランティアに興味があつて、参加した。地元の海がきれいになってすがすがしい気分になった。(男性)
- ・高校でマリンスポーツ部に所属している。マリンスポーツを安全に行うためにも環境整備は重要。(男性)
- ・今回の参加者は1年生。来年も参加することで、継続的に地元を支える人材を育成し、地元との連携を作っていきたい。(顧問)
- ・浜名湖に生息する植物に興味があつた。次は、外来植物、在来植物とももう少し説明を聞きたい。(男性)

【舞阪の自然を守る会から】



- ・高校生等の頑張りにより、想定以上の量の植物を除去することができてよかった。(寺田事務局長)
- ・今後も外来植物の除去活動に定期的に参加していただけたらうれしい。(寺田事務局長)
- ・春から夏にかけて、浜名湖特有の在来植物が花を咲かせる頃。それらの植物も解説したい。(寺田事務局長)
- ・過去最高の除去量になり、大成功。皆さんに感謝！(事務局の方)



資料：静岡県自然保護課 外来植物対策の取組説明資料

参加者からは、「外来植物という言葉は知っていたが、こんなに広がっていることは知らなかった。」「浜名湖に生息する植物に興味があつた。次は、外来植物、在来植物の説明をもっと聞きたい。」「環境教育に携わりたいので、外来植物を知る機会があつてよかった。」等の感想をいただいたと報告した。

こうした声や外来植物の状況を踏まえ、地域の方々による活動を支援するなど、日本の宝である浜名湖の豊かな生物多様性の保全に努めていきたいと考えていると発表した。

(3) リレートーク

参加団体からそれぞれの活動を紹介してもらいリレートークを行いました。

① 浜名湖ネイチャーズ

- ・浜名湖ネイチャーズは、主に3つの活動を弁天島いかり瀬で行っている。
- ・1つ目は、アマモ場の保護活動
- ・2つ目は、ランニングの市民団体（プロギング）と一緒に弁天島海浜公園周辺やいかり瀬でのゴミ拾い活動
- ・3つ目は、静岡大学と共同でアマモ（海水温が高くても生育する品種）の研究
- ・浜名湖の環境の変化について、牡蠣、海苔、アサリなど魚介類が獲れなくなっており、その原因も主に地球温暖化が影響しているの痛切に危機感を感じている。
- ・より多くの人にこのことを伝えていきたい。



浜名湖ネイチャーズの3つの活動

②浜名湖パドル

- ・カヌー・カヤック・サップで浜名湖の弁天島を中心にみんなで楽しめるパドルングのガイドツアーを実施している。
- ・参加してくれた方は、この経験を通して意識的に自然を知覚できるようにと思っている。
- ・世界をカヤックで旅をすることを行ってきた。1200日をかけて浜名湖弁天島から手漕ぎ舟シーカヤックにて日本一周達成。
- ・弁天島海浜公園にいますので、ぜひ声をかけてほしい。



カヌーで日本一周



いかり瀬には貴重な植物もあり



いかり瀬でカヤックの体験教室



手作りの丸木舟を作って浮かべる活動

③日本野鳥の会 遠江支部

- ・日本野鳥の会は、野鳥の観察会を開催するほか、野鳥の調査を行っている。
- ・モニタリング調査を毎年行っており、主にガンカモ類、ウ類調査を実施している。
- ・浜名湖は静岡県内の中でガンカモ類が一番多く飛来している。
- ・しかし、このガンカモ類がここ数年非常に減少している。
- ・原因は餌がとれないことなのか不明であるが、明らかに鳥の生態系に何らかの環境の変化が生じているということを伝えたい。
- ・今後も経過観察はしていき、報告していきたいと思っている。



※当日説明資料は、非公開を求められており省略(データは削除)

④EM 倶楽部/湖西

- ・コロナ禍で2年以上まともな活動ができていない。
- ・それでもはまなこ環境ネットワークなどと連携して、夏7月に「浜名湖ミナトリング」の会場で団体の活動を紹介するブースに出展し、PRすることができた。ガーデンパークの浜名湖環境パネル展にも出展させてもらった。
- ・活動は、EM 菌による水質浄化活動で長く続けている。
- ・学校からの要請もあって、子どもたちに環境の学習を提供しているが、学校の場合、先生が異動するとその学校とは関係が切れてしまうことが多く、人によって変わるので継続性に課題がある。
- ・団体のメンバーも高齢化しており、いつまで続けられるか様々な思いがある。
- ・自分たちが協力できることは協力していきたいと考えている。



浜名湖ミナトリング会場で団体のPR



EM 菌の泥ダンゴづくり



EM 菌の米とぎ汁発酵液
浜名川の水質浄化活動

⑤むらちゃネット

- ・村檜町で耕作放棄地対策・活用や農地の環境整備、景観作物（農地を花で飾る）などに取り組んでいる団体。
- ・以前は、はまなこ環境ネットワークが浜名湖アマモを活用して、畑の堆肥にして野菜づくりなど農業の体験をする活動にも協力してきた。
- ・当団体は、2004年浜名湖花博が開催されたことを機に地域で立ち上げた団体で、これまではNPO 法人であったが、メンバーが高齢化、減少してきているので事務の負担を軽くするためにNPO 法人を解散して、任意団体として活動することになった。
- ・今後ともご指導をお願いしたい。



耕作放棄地を景観作物で飾る



アマモを畑にすき込んで野菜の種まき→耕作放棄地を使って野菜づくり体験（はまなこ環境ネットワーク）

⑥浜名湖ガーデンパーク

- ・浜名湖ガーデンパークは、花のテーマパークではあるが、毎年2月頃に「浜名湖環境パネル展」を開催している。
- ・来年も開催する予定なので、はまなこ環境ネットワークの皆さんもぜひ出展してもらいたいのので、募集要項などが決まったら改めて事務局を通じてご案内させてもらいたい。



令和3年度の浜名湖環境パネル展の様子

⑦浜名っ娘クラブ

- ・漁師の奥さんたちの有志によるグループで、地域の漁業資源を使ったノリやシラスなどを使ったコロケや天ぷらなどの商品をイベントなどに出店して販売させてもらっている。
- ・協力していただける人や企業のおかげであちこちに出店させてもらっている。
- ・浜名湖ミナトリングの会場にも出店させていただくなど、今後も皆さまにいろいろとご紹介いただければ嬉しい。



浜名湖ミナトリングなどイベントに出店

⑧NPO 法人地域づくりサポートネット

- ・浜名湖の水をきれいにする会主催の「浜名湖プラスチックごみ」の体験学習会を運営させてもらっている。今年度は10月に新居弁天海水浴場でごみ拾い調査とプラスチックごみを探す取組を実施。海湖館前の栈橋から今切口とカキ養殖の現場を湖上遊覧、いかり瀬で生きもの観察会を実施。
- ・この体験学習会は、当ネットワークが実施していた浜名湖エコキッズ体験塾と同じ形式で、親子参加型で申込が殺到し、定員の3倍以上の申込で抽選になった。市民の意識の高さを感じた。
- ・また、舞阪町観光協会が様々な団体と連携し、今年度観光庁の事業により弁天島浜浜公園で漁業×環境×街道文化を体験する「浜名湖まるごと体験 表浜名湖SDGsツアーリズム」を行っている。



12月からは海産物を販売する「浜小屋マルシェ」も開催する予定。



浜水会が開催した浜名湖プラスチックごみ体験学習会

表浜名湖まるごと体験 モニターツアー 募集

SDGs ツーリズム

里親と里猫の活躍と習合する浜名湖。国内屈指の農場として種々豊富な魚介類（しらす、うなぎ、つばき、あさり、海苔、クルマエビ、牡蠣、ドクサシなど）が獲れる水産物の宝庫です。このツアーでは、浜名湖の漁業や環境、東海道の街道文化（宿場、関所、寺の遺し）に関する学びを体験していただきます。

ABAHA CYCLING AND GOLF EXCURSION

舞阪サイクリング+湖上遊覧

ツアー日：10/20(日)・11/24(土)
 集合時間：8:00 終了予定：10:00
 参加費：ツアーモニター価格 2,500円/名
 申込先：丹波島海産公園
 申込受付日数：前13日(祝日を除く)

ABAHA CYCLING AND GOLF EXCURSION

新居サイクリング+湖上遊覧

ツアー日：11/13(日)
 集合時間：8:00 終了予定：10:00
 参加費：ツアーモニター価格 2,500円/名
 申込先：丹波島海産公園
 申込受付日数：前14日(祝日を除く)

MALASA AND PARAI WALKING

舞阪+新居ウォーキングコース

ツアー日：10/26(日)・11/13(日)・12/4(土)
 集合時間：8:00 終了予定：15:00
 参加費：ツアーモニター価格 2,500円/名
 申込先：丹波島海産公園
 申込受付日数：前15日(土)

HAMANAKO STAY

浜名湖まるごと体験宿泊コース

ツアー日：11/6(土)～11/8(日)
 集合時間：11/6 13:00 終了予定：11/8 18:00
 参加費：ツアーモニター価格 4,500円/名(12歳以下は3,500円/名)
 申込先：丹波島海産公園
 申込受付日数：前15日(土)

湖小籠カフェ

新居大や城にもこだわったカフェを
 船の上で楽しめます。

OPEN 10月～11月の上旬のみ
 9:00～15:00

湖小籠マルシェ

浜名湖の産物が出揃って、観光・
 体験できます。

OPEN 10/7(土) 18(日)
 10/14(土) 15(日) 24(土) 25(日)
 9:00～13:00(予約)

浜名湖まるごと体験-SDGs ツーリズム(無休予約受付内) TEL 053-661-0751 / FAX 053-650-0759

浜名湖まるごと体験-SDGs ツーリズム(浜名湖の里親の家から予約) 電話:053-654-2600 申込先:053-654-2600
 浜名湖の里親の家(浜名湖の里親の家) 電話:053-654-2600 申込先:053-654-2600
 〒420-0202 浜名湖町浜名湖町4-2-18 電話受付(平日9:00~17:00) 日 前13日(土)

申込先QR 053-654-2600 053-654-2600



漁業×環境×街道文化を体験
 するSDGs観光の商品化、仕組みづくり
 (はまなこ環境ネットワークも連携)

< 渚園管理者からの伝言 (欠席のため) >
 渚園の管理者として、今年度、渚園利用者を対象に浜名湖の環境学習会を開催する予定で浜名湖のごみに関する学習や湖上の遊覧などを行う予定である。これまでも実施する予定であったが、コロナ禍で延期していた。

(4) 意見交換会

○テーマ：浜名湖の環境と生物多様性

○論 点：浜名湖の生物多様性の課題

浜名湖の生物多様性に対する活動（自分たちができること）

生物多様性地域戦略（中間見直し）について

今回の交流会（意見交換会）のテーマは、上記の内容として参加者から3つの論点を踏まえながら、ファシリテーターの進行で自由討論とした。

出された意見をファシリテーターがカードに記入し、模造紙に貼り付けて意見を整理した。



<意見のとりまとめ>

■浜名湖を楽しんでもらう

アグリチャレンジ	むらちゃネットでは収穫祭を開催：61名参加
----------	-----------------------

■いかり瀬を活用して生物多様性の環境を保全

アマモ場の保全	この数年間で浜名湖のアマモ場が減少 このままでは魚介類の生態系が変わる アマモ場を守るための色々な知恵が必要（専門家の情報、データ） アマモ勉強会をしている
いかり瀬の保全・活用	特徴的なスポット→保全・活用 いかり瀬を守る体験→環境啓発 植物を学ぶ、外来植物の抜き取りの活動を実施 広く環境に興味を持ってもらう場として活用したい！ 市民団体と一緒にゴミ拾いの活動をやっている いかり瀬は最後の砦なので、みんなで保全する
いかり瀬 外来植物	いつの時代のいかり瀬に戻すか？ 今の現状を大切に作る？ アサリ、魚の変化を知ることは大切 外来種は繁殖しやすい→対策が必要 いかり瀬という場所や外来植物は行動に移しやすい？

■外来種の課題を解決する

外来種、在来種	外来種がなぜ悪いか？説明できる資料が必要→県に提案 カダヤシ メダカすくい ランタナ 西洋あさがお
---------	---

外来種対策	行政の手ではやり切れない→県民や企業の参加 浜松市内は「ヌートリア」が増加しているので駆除が必要 猪鼻湖まで視野に入れる 県だけでなく、浜松市と湖西市が協力する必要がある
-------	--

■情報の発信、共有化

知る機会を増やそう	寺田さんデータ、資料をまとめる！ 浜名湖から情報発信 浜名湖発、いかり瀬発の情報発信 浜名湖は広いので、それぞれ地域の特徴を発信
-----------	---

■企業としての関わり、その他

OM ソーラー	施設を動植物の専門家の、観察の場として提供している 一般の方々が生き物などを観察する機会をつくる
その他	海岸線の後退 中海が（いかり瀬）最後の砦となっている 生物の個体が小さくなっている EVERYBODY IS GOOD 後世に残していくことが大事

【主な意見】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 浜名湖の環境を知る上で特徴的なスポットは「いかり瀬」 ・ 外来生物もあるが、「外来植物」の方が行動に移しやすい ・ 外来植物がなぜ悪いか？“説明できる資料”が必要⇒県に提案 ・ 外来植物だけでなく、在来種であるアマモ場の保全も大切である（外来種と在来種の両面を保全する考え） ・ 行政だけではできないので、県民や企業の参加が大切である ・ 情報発信を行い、知る機会を増やそう！

(5) 総括

●浜名湖環境ネットワーク 芥川代表

次年度以降も「外来種」をテーマに外来植物を中心に生物多様性の保全に向けてそれぞれの団体が取り組むことが大切である。

活動の場所としては、いかり瀬が象徴的な場所であり、やりやすい場所である。

ただし、浜名湖の各地で同様の課題があるので、外来種対策については、いかり瀬に限らず様々な団体・企業等と連携して、活動を拡大していくことが必要であると提案した。

また、団体の様々な取組や環境に関する情報を発信して、共有していくことの必要性も提案された。